

開催報告

第14回日本医療マネジメント学会学術総会

第14回日本医療マネジメント学会学術総会

会長 江口勝美

(佐世保市病院事業管理者兼佐世保市立総合病院院長)



開会式 会長挨拶

2012年10月12日(金)、13日(土)の2日間、アルカスSASEBO、佐世保市体育文化館他において第14回日本医療マネジメント学会学術総会を開催させていただきました。

今回の開催は本来なら岩手県立中央病院

佐々木 崇名誉院長が開催される予定でしたが、東日本大震災・大津波で開催が危ぶまれ、私共が引き受けることになり、秋の日本医療マネジメント学会第11回九州・山口連合大会(会長 君野孝二 健康保険諫早総合病院院長)と合同開催となりました。

さて、本学会が長崎県で開催されますのは2度目で、米倉正大先生(国立病院機構長崎医療センター院長)が第11回日本医療マネジメント学会学術総会を長崎市で開催されています。同じ長崎県内とはいえ、医療環境が大きく異なる佐世保市での開催でした。佐世保・県北医療圏の一地方の自治体病院の院長が会長を務める今回の学会では「地域医療の復興と絆～チーム医療と地域連携をさらに進めるヒューマンネットワーク作りを目指して～」をメインテーマに掲げ、それに添ってプログラムを組ませていただきました。

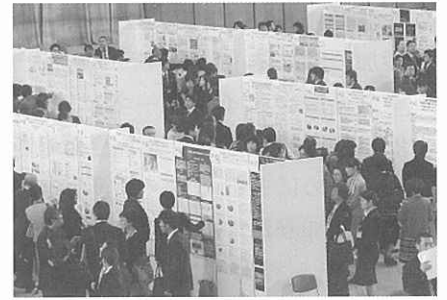
学会開催を引き受け、短期間でのプログラムの企画でしたが、宮崎久義理事長をはじめ多くの理事の先生方のご支援を受け、基調講演(1題)、会長講演(1題)、招待講演(3題)、特別講演(2題)、教育講演(2題)、教育セミナー(2題)、フリートークセッション(2題)、シンポジウム(11題)を企画することができました。これも偏に理事の先生方のご協力の賜と深く感謝申し上げます。また、企業のご協力も得られ、ランチオンセミナー(18題)、イブニングセミナー(2題)を企画することができました。

ご応募いただ



講演会場

きました演題につきましては、査読委員により厳正な審査を経て、一般演題(口演545題、ポスター504題)、クリティカルパス展示67題で合計1,116



ポスター会場風景

題を採用させていただきました。カテゴリー別では前回と同じく医療安全、地域医療、地域医療連携、医療の質の順に多く、今日の課題を反映したものでした。ご希望に添えず、口演からポスターに回っていただいた演題も多くありました。しかし、これまでにない多数の応募をいただき、衷心より御礼申し上げます。

学術総会の会期中の参加人数は3,507名(事前登録:2,047名、当日登録:1,460名)と多くの方々に出席していただきました。地方都市佐世保市での開催ということで、学会事務局としては可能な限り対策を講じたつもりですが、参加者の皆様にご迷惑・ご不便をかけたことに深くお詫び申し上げます。

1日目の招待講演1は、外科医、病理専門医であると同時に有名な文筆家である海堂 尊先生に「Ai (Autopsyimaging: 死亡時画像診断)が医療を救う」というテーマでご講演をしていただきました。Aiが透明性、迅速性、中立性、公平性であり、情報公開を促進する検査という理由からAiを医療現場できちんと実施すれば、良質な医療と市民社会が守られるという主張でありました。

2日目の招待講演2は山下俊一先生のご講演で、「放射線災害医療: 福島原発事故の教訓から」というテーマでご講演して下さいました。先生は長崎大学教授でありながら、原発事故直後福島県立医大の副学長となり、福島原発事故の対応に当たっておられます。チェルノブイリの原発事故にも造詣が深く、福島原発事故後の被ばく医療対応について紹介していただきました。

招待講演3は市民公開講座で、佐世保市民だけでなく、学会参加者も多く出席(約1,300人)していただきました。演者は株式会社ジャパネットたかた 代表取締役 高田 明様で「60秒に懸ける人生“夢持ち続け日々精進”」というタイトルで講演していただきました。カメラ店から出発し、全国に知られる通販大手に成長させた半生を振り返り「どんなに不可能と思えることでも、出来ると思えば出来る」と絶えず夢の実現に努力を傾ける大切さを強調されました。通販番組で商品の魅力をPRする立場から、他人に「伝え